慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済学会報告 学会会員に関する附則 学会則に基き委員会の承認を得た賛助会員 慶応義塾経済学会会則
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.5 (1952. 5) ,p.363(67)- 364(68)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520501-0067

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

は商品及び勞働者の缺乏のために閉鎖の止むなきに至つた。そこで政府は嚴重な食糧配給制度を布き、その割當量は勞働者及びその家族の最小必要量にもとづいて決定せられた。しかし此の最小必要量すら國營小賣機關は供給することが出來なかつたために家庭の主婦達の農民市場への依存度は愈々高まり、一九四二年の農民市場の數は前年のそれを三〇％以上も上廻る增加を示し、又政府自身もかゝる個人的取引を奬勵しなければならない羽目に陷入つた。かくて當局の理想とする社會主義的取引は背後におしやられ、農民は再び重要な生產者となつて現はれたのである。斯る事情は農產物價格の異常な騰貴をもたらし、此の傾向は一九四一、四二年と續き、四三年には遂ひにその頂點に達した。ところが四三年に始まる赤軍の總反擊と共にやがて高騰した價格も漸次低下のきざしをみせはじめ、國營商店における販賣高も增加し、又農民市場における價格もたとへ低下しないまでも一九四四年には阻止せられたことは事實である。

平和の訪れと共に農業生產の恢復も顯著となり、一九四五年八月始めて政府は國營店における價格の引下を發表し、これに影響せられて農民市場における價格も低下し、一九四五年九月には驚くべき暴落を見た。そこで政府は割當配給制の廢止をすら考慮するに至つたのであるが、一九四六年西部地方における旱魃は此の計畫の實施を更に一年延期するを餘儀なくした。そして翌年十二月にはルーブル貨の平價切下を斷行し、續いて食

糧配給制の全廢を決定した。此の措置は同年の豐作と農民市場における價格の或る程度の下落に相應ずるものであつた。四八年八月の農民市場の食糧品價格はかなりの下落を見たのであつたが、此の價格低下の幾分が國營商店の小賣價格の引下に影響されて生じたものであり、幾分がルーブル貨の平價切下の結果であるかはなほ檢討すべき問題である。それはともかくこれらの措置はその後の經濟的諸條件の好轉と相俟つてルーブル貨の購買力を增加せしめ、實質賃銀を高めたことは否みえない。しかしそれにも拘らず多くの勞働者や官吏は一般物價の高い農民市場で購入することは出來ず、國營店にないものはこれをなしですまさなければならなかつた。カコーフ氏の指摘せる如く、一九四二年から四四年に至る間の政府の食糧品に對する價格統制は全く混亂を極めてをり、更に市場價格と公定價格の並立を認めたことが一層此の傾向を助長する結果となつた。二重價格制度の採用を餘儀なくしたものは、消費財の絕對的過少と配給組織の缺陷にあつたことは云ふまでもないが、むしろ吾々はかゝる問題の解決が困難なところに、又同じことではあるが二重價格制度の採用を許さざるをえなかつたところに實はソヴイエット社會の苦惱が橫たはることをよみとりうるのではなからうか。

（片岡一郎）

經濟學會研究報告（昭和廿六年十月——廿七年三月）

十月十一日（廿六年）

アメリカにおける政府とビズネスとの關係についての一考察　飯島瑞子

賃銀指數の經濟理論的意味とその算定　小尾惠一郎

十月廿五日

經濟政策論の性質に關する我國の學說について　氣賀健三

シドニー・ウエッブ夫妻　飯田鼎
—その生涯と業績—

十一月一日

ソ連邦經濟の地理的側面　小島榮次

紀伊國における封建社會の成立　服部謙太郎

十一月十五日

地域社會における緊張關係について　小池基之

品質管理の性格と組織との關連について　田中英明

十一月廿九日

獨逸ハンザとベルゲン貿易　高村象平

經營管理の先驅的構造
—經營管理思想の萌芽—　關口操

十二月十三日

明治初年における殖產政策と在來產業　尾城太郎丸

慶應義塾經濟學會々則

二月七日（廿七年）

我が國現下の產業合理化と企業經理
—產業合理下促進法を中心として—　小高泰雄

社會問題とその解決
—戰爭とストライキに關連して—　青沼吉松

學會會員に關する附則

本會に特別會員と贊助會員をおく。

一、特別會員　慶應義塾關係者で本會の主旨に贊同し、會員二名以上の推薦と、委員會の承認を得た者。
但し年額金千二百圓の會費、（二期分納も可）を納める者。

一、贊助會員　本會の主旨に贊同し委員會の承認を得た者。
但し年額三千圓以上の贊助金を據出する者。

特別會員および贊助會員は、會則第三條に規定された諸事業に參加し、機關紙「三田學會雜誌」の無料配布を受けることができる。

右會則に基き委員會の承認を得た

贊助會員（敬稱略）

勝俣千之助（大田區調布千鳥谷六三五）

慶應義塾經濟學會々則

第一條　本會は慶應義塾經濟學會（The Keio Economic Society）と稱する。

第二條　本會は經濟學の研究及びその奬勵、普及並びに會員相互の親睦を圖ることを目的とする。

第三條　本會は前條の目的を達成するため次の事業を行ふ。

一　研究會の開催

二　機關誌「三田學會雜誌」及びその他研究成果の刊行

三　講演會、資料展覽會の開催

四　他の學會及び諸團體との連絡

五　その他本會の目的を達成するため適當と認める事業

第四條　本會は慶應義塾大學經濟學部所屬專任者のうち經濟學を專攻する者を以て組織する。

第五條　本會に左の役員を置く。

一　會長　一名

二　顧問　若干名

三　委員　若干名

四　監事　二名

第六條　會長は慶應義塾大學經濟學部長とする。顧問は會長が依囑する。委員及び監事は總會に於て會員の互選によつて定める。

第七條　會長は本會を代表し會務を總理する。顧問は會長の諮問に應ずる。委員は委員會を組織し會務を執行する。監事は會計を監査する。

第八條　委員及び監事の任期は二年とする。但し再選を妨げない。

第九條　會長は年一回總會を招集する。但し必要に應じ臨時總會を招集することができる。

第十條　會員は年額金一千二百圓の會費を納める。

第十一條　會員は機關誌「三田學會雜誌」及び其他本會刊行物の配布を受けることができる。

第十二條　本會の經費は會費、贊助金、補助金及び其他の收入を以て之に充てる。

第十三條　本會の會計年度は毎年四月一日より翌年三月三十一日迄とする。

第十四條　本會々則の變更は總會の決議による。

第十五條　本會の事務所は慶應義塾經濟學部研究室内に置く。

經濟學會委員

藤林敬三　高村象平　平井新

山本登　宇治順一郎　青沼吉松

服部謙太郎　安川正彬　白神俊彦

植木憲二　山部德雄　片岡一郎

辻村江太郎

編集後記

再び戰爭の不安が、我々におそいかゝつてきた。戰爭というものは、いつの世をみても我々一般のものには餘りかゝわりなく行われてゆくものらしい。しかし戰爭によつて我々の受ける傷痕は、如何に計り難いものか。

ある人は「現在の戰爭を、何千年か後の歷史家は宗教的戰爭と規定するであろう」といつた。〝人間理性〟を謳歌してきた近代人が、再び神祕的、形而上的なものにおいて爭そうとは。しかして又これが事實であるとすれば、戰爭をおこさしめてゐる神祕的なものとは一體何であろうか。形而上的なものを建設しつゝあるとされる所謂〝人間理性〟による認識體系に對する批判と、國家社會制度というものゝ性格を更に一層深く分析することを要求される所以でもある。近時、理想（型）よりむしろ現實、理解よりむしろ觀察、〝認識〟よりむしろ體驗であるといわれてゐる所にも通ずるものがある。

時代は絶えず移りつゝある。人々は常に新らしい問題に直面しつゝ、眞實とは何であるかを求めてゐる。今日ほど鋭い洞察力、嚴しい求道精神並びにそれを裏付ける豐富な體驗とを必要としてゐる時はあるまい。

（山部德雄）

昭和二十七年四月二十五日印刷
昭和二十七年五月　一　日發行
第四十五卷　第五號　定價　七拾圓　送料　四圓
編輯兼發行者　東京都港區芝三田慶大經濟學部内　高村象平
印刷所　東京都港區芝三田豊岡町八　圖書印刷株式會社　川口芳太郎
豫約購讀料
一年分　金八四〇圓（送料共）
半ヶ年分　金四二〇圓（〃）
發行所　東京都港區芝三田二丁目　慶應義塾大學經濟學部研究室内　慶應義塾經濟學會